

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

宮城県亘理郡山元町立山下小学校

C-14

【活動名】コンパクトでインパクトのある校内研修の一試み ～全員講師の OJT と、協働での授業作りから～

解決すべき課題： コンパクトな校内研修機会の中で教師一人一人の授業の腕前を上げる 教師としての校内研究組織への貢献意欲や自己有用感を向上させる 教師自身が主体的・対話的で深い学びをしようと意識する 授業者へのサポートと協働により負担軽減を図りながら、校内研究を活性化する

目的や背景：

(1) 全員が講師で OJT (On the Job Training) の意義

・今後は、これまで学校を支えてきた経験豊かな教師の大量退職が見込まれ、それらの教師が有する実践的知識や指導技術を組織的・計画的・継続的に次世代の若手・中堅教師へ継承していく機会確保としても OJT は重要であり、それならば教師全員が講師となって実施したいこと。

・教師が児童生徒と向き合う時間を確保することや教師の多忙化が叫ばれる中、外部機関や公開研究会等への派遣を主とした多くの時間（会場への移動も含めて）を掛けた研修への度重なる参加は学校現場として厳しいものがあること。特に本校は加配教員が一人もおらず、たいへん難しい。

・それでも、児童の学力向上という大きな課題に向かうためには、教師一人一人の資質と学校の教育力を向上させる必要があり、そういう意味からも校内で行う OJT が一層重要視されること。

・ただし、計画性に欠け、明確な方針を掲げないままでの OJT 推進は、個々の教師の主観や経験値のみが色濃くなりすぎたり、内容にばらつきが生じたりすることが懸念されるので、校内研修体制を整えたうえで推進すべきであること。

(2) 協働での授業作り推進

・新指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び」は、今後の授業における重要なキーセンテンスであり、これを本校なりにどう解釈し実践していくかを議論し動き始めているが、まずは我々教師自身がそこに入り込みたいと考えていること。

・これまでのように研究授業を参観し、事後検討会は聞き役では、指導力の高まりを期待できない。指導案作り、事前検討会、事後検討会を通し、教師集団として「主体的・対話的で深い学び」のできる協働の授業作りに取り組むことが必要と考えること。

活動内容： 校内研究組織として授業研運営部、実態調査部、OJT 担当部に分かれ研究全体を推進し学年部研究により研究授業を行う体制である。

(1) 授業研運営部：研究全体に関わる企画立案，研究推進委員会運営，研究授業の運営，研究推進便りの作成 → 一人1回の研究授業の設定，研究内容の確認と学校全体への反映

(2) 実態調査部：児童の実態，意識調査等の計画と実施，分析 → 年2回の全児童への意識調査

(3) OJT 担当部：全教師が一人1回を基本に講師を務める OJT 研修の企画運営 → 授業に役立つ指導技術の向上

OJT 自体が、時間も手間も回数もコンパクトなものでありながら教師一人一人の授業の腕前が上がるようなインパクトのある実践的な内容でありたいと考え、企画運営した。OJT は教師にとって実際の主たる仕事（＝授業）に直結させて人材育成（＝指導力向上）を図ることができ、「個人の成長」と「学校の課題解決」のどちらをもねらうことができる。教師は年度内に約 1,000 時間もの授業を行い、それを 10 年、20 年、30 年と積み重ねてきている。その中で、必ずや指導のこつ、工夫した教材、成果の上がった実践、自信のもてる指導法等を有しているはずである。しかしながら、それらを伝える機会をもたないまま、受け身の研修に参加することが多くなりがちである。経験豊かな教師は身に付けた指導技術を、若手・中堅教師は最近の実践を、各々が講師役となって学び合おうという試みにより、組織内における自信とやりがいが増し、他の教員に対して役に立てるという貢献意欲や自己有用感をもちせられるのではないかと考え、全教師が一人1回を基本に講師を務める OJT 研修を推進した。一つ一つの研修を終える度に講師を務めた自らも、周りの教師も、成長実感が得られ、児童の指導に役立ち、校内研究組織全体の高まりに繋がっていったと感じる。

(4) 学年部研究：協働での指導案作成，教材準備，事前・事後検討会での説明 → 検討会進行役の輪番での取組

「主体的・対話的で深い学び」を強く意識した授業改善のために、研究授業を「参観」するのではなく「協働で創り上げる」ことを大切にしたいと考えた。学年部が中心となり指導案を作成し、事前検討会では指導案の説明や配慮すべき児童等の確認に終わらず、模擬授業を行い発問や切り返し、研究テーマとの関連等も、自らが授業者になったつもりで話し合った。事後検討会では研究の手立てに絞り込んで各自の意見をボードに書き込み、話し合いの中で共有した。ワークショップ型の学びを通し、短時間でも中身の濃い、そして自分の指導力向上に繋がるような検討会をイメージし、一人1回の研究授業を充実した時間にした。話し合いをコーディネートする進行役も輪番制として、主体的・対話的であるようにした。コンパクトな研修の時間にするため、言い足りない思いや授業者への労い等を用紙に文章化し、検討会終了後に授業者へ言葉のギフトメッセージとして贈った。こうした研究を重ねながら校内研究を活性化し、教師自身が主体的・対話的で深い学びを普段の授業から行おうと意識することに繋がっていきたく考えた。

活動の成果： 授業に生かせる様々な教科・領域でのちょっとした技の習得により「授業の腕前」を上げることに役立った。「正直今までタンバリンの穴に指を通して持たせていましたよ。」「毛筆書写の際、こんな一工夫で机の上を広く使えるんですね。」といった声が聞かれた。OJT により実践的人材育成に繋がった。（別紙資料）



・教師全員が校内講師役や研究授業者を務めることによって、教師の自己有用感の醸成に繋がった。「こんな実践の紹介で、先生方のお役に立ちますか？」と話す教師もいたが、OJT を受講した教師からは「私も早速やってみます。」と感謝の声が上がった。この1年間、教える側、教えられる側の両方の立場に立ちながら双方向の学び合い、高め合いを組織的・計画的・継続的に行うことができた。教師の意識も大きく変わり、教師自らが主体的・対話的で、深い学びを意識するようになってきている。（別紙資料）

・協働での授業作りや検討会で悩みや疑問点を共有しながら取り組むことで、お互いの信頼関係をも高めることに繋がりが、学校内の人間関係をよりよく醸成することができた。その上で、研究授業の事前検討会では「こうしてはどうだろうか？」という発言が相次ぎ、本音で授業改善を図ろうとする質の高い協働意識が向上した。（別紙資料）

アピールポイント（アイデア）： 校外での一日がかりでの出張研修や長時間かけての伝達講習の機会を絞り込み、その分全員講師の OJT と協働での授業作りによる研究授業重視の研究・研修スタイルを創り上げた。OJT では講師の準備の負担軽減を図るため、毎回 15 ～ 30 分程度の研修とした。教師の授業の腕前を上げるとともに、自己有用感醸成にも繋がられた。学んですぐ使えるように、適時性のある研修機会確保が大切で、年度初めに各教師に OJT 講師をしたい時期を予め聞き、調整した。またすべての研究授業において「参観する研究授業」から「協働で創り上げる研究授業」への質的転換を図った。

【別紙資料】

資料 OJTの様子

・授業に生かせる様々な教科・領域でのちょっとした指導技術の習得により「授業の腕前」を上げることに役立った。
 ・1研修につき15分～30分程度で、過重な負担の掛からない範囲で重ねていった。



SNS に関する内容



MAP の手法



体育実技

資料 OJTでの講師(年1回)

・ICT, SNS に関する内容 ・オリンピック・パラリンピック教育 ・体育実技「ドンビーボール」 ・MAP の手法 ・楽器の演奏法 ・道徳の授業作り ・学期はじめの学級開き ・ダンス ・集団作りのためのレクリエーション ・毛筆書写と用具の工夫 など、教師全員が1回ずつ校内講師を務めた。それぞれに組織への貢献意欲と自己有用感が高まった。



楽器の演奏法



毛筆書写と用具の工夫

資料 研究授業での授業者(年1回)

・校内研究主題「自ら考え、進んで伝え合う児童の育成～主体的対話的な学びを促す指導の工夫を通して」に合わせ、一人1回の研究授業を行った。1年：国語，2年：音楽，3年：理科，4年：国語，5年：国語，6年：社会と、教科に広がりがあり、各自が実践に繋げる上でよい研修となった。



2年：音楽



1年：国語



6年：社会

資料 協働での授業作りと事前・検討会

・指導案作成や教材、掲示物作成等は、授業者の希望を優先しながらも、低中高の学年部を基板に協働で行った。さらに全員が事前検討会に参加し、模擬授業を行いながら意見交換を行った。「参観する研究授業」から「協働で創り上げる研究授業」へと質的転換を図った。事後検討会は予め授業の視点に沿って各自の考えや質問等をボードに書いておき、輪番で進行役や記録者を決めてワークショップ方式を取り入れながら行った。限られた時間内での話し合いのため、言い足りない思いや労い等を文章化し、検討会終了後に授業者へ言葉のギフトメッセージとして贈った。これが互いの関係性向上にも役立ったようである。授業改善を図り、教師の力量アップ、児童の学力向上へ繋げようとする質の高い協働意識が高まった。



予めボードに記入



授業の視点に沿った話し合い



進行や記録は輪番制で全員

資料 職員への意識調査

・12月に校内研修に関する職員への意識調査を実施した。結果は4項目すべてにおいて全員が「最もよい」ものであったとの回答であった。

H29 山下小学校 校内研修 職員意識調査 (NITS 大賞用)				
氏名	質問①	質問②	質問③	質問④
渡邊 清孝	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
齋藤 崇裕	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
渡邊 徳弘	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
丸子 勝弘	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
大沼 仁	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
高橋 研一	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
小野 毅	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
武田 清美	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
小川 仁志	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
森 大地	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
三浦富士子	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1

・質問① OJTは、授業に役立った、あるいは役立たせる予定があるなど、自分にとってよい内容でしたか？
4とてもよい 3ややよい 2やや悪い 1悪い
参加者11名全員が「とてもよい」と回答

・質問② OJT講師を務めた内容が、他の先生の役に立っていると思いますか？
4とても思う 3やや思う 2あまり思わない 1思わない
参加者11名全員が「とても思う」と回答

・質問③ 1年間の校内研修を通して、自分自身が主体的・対話的で深い学びをしよう意識するようになりましたか？
4とても思う 3やや思う 2あまり思わない 1思わない
参加者11名全員が「とても思う」と回答

・質問④ 協働での授業作りや事前事後検討会を通して、自分の授業改善に役立ちましたか？
4とても思う 3やや思う 2あまり思わない 1思わない
参加者11名全員が「とても思う」と回答

・質問 OJTは、授業に役立った、あるいは役立たせる予定があるなど、自分にとってよい内容でしたか？

4とてもよい 3ややよい 2やや悪い 1悪い

参加者11名全員が「とてもよい」と回答

・質問 OJT講師を務めた内容が、他の先生の役に立っていると思いますか？

4とても思う 3やや思う 2あまり思わない 1思わない

参加者11名全員が「とても思う」と回答

・質問 1年間の校内研修を通して、自分自身が主体的・対話的で深い学びをしよう意識するようになりましたか？

4とても思う 3やや思う 2あまり思わない 1思わない

参加者11名全員が「とても思う」と回答

・質問 協働での授業作りや事前事後検討会を通して、自分の授業改善に役立ちましたか？

4とても思う 3やや思う 2あまり思わない 1思わない

参加者11名全員が「とても思う」と回答